

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 単位制の利点をいかした年次進行制の教育課程に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を展開する。</p> <p>(2) 学習意欲を高め、自ら考え、表現する力を育む。</p> <p>(3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を図る。</p>	<p>(1) 新しい教育課程の理念を踏まえ、授業の量的確保を前提とした「単位制の利点」との整合性を図る教科指導体制を実現する。</p> <p>(2) ICT機器等を活用することで、生徒が主体的に学べる環境を構築し、わかりやすい授業を実現する。</p> <p>(3) 「わかる授業」を追求し、基礎的・基本的な知識・技術の習得を目指した教科指導を展開する。加えて、外部教材を導入することで、基礎学力の更なる定着を図る。</p>	<p>(1) 本校生徒に対応した新しい教育課程の理念に基づき、主体的・意欲的な姿勢で授業に向き合う態度を育成するための授業改善の取組をさらに進める。</p> <p>(2) 生徒の学習意欲を高め、「わかる授業」を実現するために、ICT機器や Google classroom をどう活用するか、組織的に実践研究を進める。</p> <p>(3) 「よりわかる授業」「何ができるようになるか」を明確化した授業」を追求するため、教員間の情報共有を進め、組織的に授業を改善していく。また、1、2年次に「マナトレ」を実施し、更なる基礎学力の定着を図る。</p>	<p>(1) 目標とする教育活動を展開し、生徒の主体的・意欲的な態度を育成できたか。(生徒による授業評価、進路状況等)</p> <p>(2) ICT機器等を効果的に活用できたか。また、それにより生徒の学習意欲を高めることができたか。(生徒による授業評価等)</p> <p>(3) 授業改善の取組の結果、生徒の学習への姿勢が改善されたか。また、できるようになったと実感する生徒の割合が増えたか。(生徒による授業評価、生徒の状況観察、基礎力診断テストの結果)</p>	<p>(1) 生徒による授業評価で、学習の中に「考えを広げ深めることができた」「考えをまとめたり方法を考えたりする場面がある」と答えた生徒の割合が増えた。</p> <p>(2) 全教員でICT機器活用の研修を行い、授業への活用を研究することができた。また、授業の振り返りにICT機器を用いるなどの取組を行うことができた。</p> <p>(3) 生徒による授業評価で、学習に関して「できるようになった」「基礎力が上がった」と感じる生徒の割合が増えた。</p>	<p>(1) 増えたとはいえ、生徒自身が「できるようになった」と実感させること、到達すべき具体的な目標を持たせることが必要である。</p> <p>(2) 研修テーマはニーズに合ったもので良かったが、内容の難易度に関する意見が分かれており、内容のレベルの見直しと、相互授業見学同様に研修会への参加率が課題である。</p> <p>(3) 「できるようになった」と実感させられるような成功事例を教員間で共有するための情報交換の機会を増やしていく必要がある。</p>	<p>・「わかる」「できるようになった」の実感は大切に、回答割合増はなによりだと思う。</p> <p>・教員対象のICT研修・活用は今後ますます期待できると思うが、一方で、「Chromebookを持参しない生徒がほとんど」という科目があるのが気になった。</p> <p>・「生徒による授業評価」は良い手法と思われる。各教科ごとに到達目標を事前に立てさせ、それによる評価ができることさらに良くなるのではないかと。</p> <p>・個人・家庭共に様々な事情を抱えた生徒が増えてきている中で、マナトレの試みは大変価値があると思う。少しでも一人ひとりの学力が底上げできるような取組をして頂きたい。</p>	<p>(1) 生徒による授業評価では、前期よりも後期の結果が全体的に多くの項目で向上した。さらにできるようになったと実感させたい。</p> <p>(2) 各教室に設置されているプロジェクトを授業で活用する機会が増加している。一人一台端末の活用が少数の科目にとどまっている。</p> <p>(3) 確かな学力育成の取組の一つとしてマナトレを続けているが、3年間取り組んだ生徒の声で「基礎力が上がったと感じることができた」と答えた生徒が年々増加している。</p>	<p>(1) 年度末の教科別に振り返り、取りまとめた課題点や改善点を次年度に引き継ぎ、実践することが必要である。</p> <p>(2) 一人一台端末の利活用の機会を増やすために授業実践研修等を行い、「わかる授業」の一助とする。</p> <p>(3) マナトレの活用を工夫し、基礎学力の更なる定着を図る。「よりわかる授業」を追求するために、教科で共通認識を持って授業改善に取り組む。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1) 生徒の規範意識を育成し、社会や集団の一員であるという自覚を持たせる。</p> <p>(2) 学校行事等への積極的な参加を通し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>(3) 教育相談・支援体制の整備に努め、生徒一人ひとりの豊かな学校生活を支援する。</p>	<p>(1) 期待される行動を取ろうとしたり、マナーを守ろうとしたりする感性を醸成するとともに、他者を思いやり、違いを認める心や態度を育む。</p> <p>(2) 学校行事や日頃の活動を通して、規範意識を身に付けさせながら、集団の一員としての責任感を育成する。</p> <p>(3) 生徒の発達に応じた支援が行えるよう、体制の整備を行う。</p>	<p>(1) 時間とルールを守ることを主眼に「授業規律」「生徒心得」等を守れるよう、一丸となって適切な声掛け指導や支援を行う。</p> <p>(2) 学校行事や生徒会、部活動・同好会などの活動を通して、生徒一人ひとりが個々の役割を自覚し、協力して運営する体制づくりを行う。</p> <p>(3) 担任、年次、保健室、SC、SSW間で綿密に連絡を取り、課題を抱える生徒の情報を共有し、適切な支援に繋げる。</p>	<p>(1) 「授業規律」等のルールが守れているか。他者を思いやる行動が取れているか。欠席数、遅刻数、指導件数は減っているか。</p> <p>(2) 生徒が様々な活動を通して、個々の役割を自覚し、協力して運営する体制づくりを行うことができたか。(生徒の取組状況、アンケート・振り返りなど)</p> <p>(3) 課題を抱える生徒に適切な支援ができたか。生徒情報共有会を実施すると共に、ケース会を適時に開催できたか。</p>	<p>(1) 欠席数、遅刻数、指導件数ともに昨年に比べ若干減少した。「授業規律」等のルールを守れない生徒、指示に従えない生徒が増えている。</p> <p>(2) 「体育祭」では、感染対策に配慮し、生徒が主体的に運営できる協力体制を整えた。「文化祭」は一般公開し、クラス企画や部活動等の発表を通して、多くの生徒が達成感を得ることができた。</p> <p>(3) 年度当初に生徒情報共有会を実施し、共通認識を持って生徒の支援に当たった。SC、SSWに相談する生徒も多く、各所と情報を共有しながら、適切な支援を考えた。</p>	<p>(1) 「授業規律」等のルールを守れるよう、職員が一丸となって、挨拶励行や適切な声掛け指導を続け、生徒との関係性の中で、他者を思いやる気持ちを育てていく。</p> <p>(2) 「体育祭」では、熱中症対策が大切であり、余裕をもった準備等が必要である。「文化祭」では、調理可とした場合、未経験の生徒・職員が多いので、準備や衛生面等を徹底する必要がある。</p> <p>(3) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健室、年次で情報を細目に共有し、外部との連携も視野に入れながら、課題を抱える生徒への適切な支援を考えていく。</p>	<p>・挨拶を含め、日常のちょっとした声かけにより生徒と教員のリレーションは少しずつ強まると思う。授業中の声かけ実践が有効だと感じる。</p> <p>・欠席数などの減少はコロナ禍の収束との関連が大きいと思われるが、ルールを守れない生徒が増えている背景にはどんなことが考えられるか。</p> <p>・生徒心得やルールの必要性の検討を生徒自身にさせ、その理解度を把握しておくことが大切かと思う。</p> <p>・今後社会に出ていくことを考えると学力以上に人間性が大切であると思う。取組を継続するとともに、粘り強い指導をして頂きたい。</p>	<p>(1) 遅刻者数、指導件数は減少した。生徒の規範意識の向上の表れと考えられる。自他尊重の心も同様に育てていきたい。</p> <p>(2) 「体育祭」では、生徒がより主体的に運営する場を増やしていきたい。「文化祭」では、衛生面に注意し、コロナ前の制限のない状態で実施していきたい。</p> <p>(3) 年次団で定期的に生徒情報を共有するとともに、スクールカウンセラー等による教育相談や様々なアンケートの結果を活用し、時を逃さず諸問題に対応することができた。</p>	<p>(1) コロナ禍で徹底しづらかった授業規律等のルールを再確認し、職員一丸となって指導を徹底していく。</p> <p>(2) 「体育祭」では、生徒個々の役割を確認し、職員との協力体制をつくる。「文化祭」では、コロナ前の状態で実施できるよう計画的に準備する。</p> <p>(3) 生徒の状況を共有し、教育相談や様々なアンケートを活用し、いじめや問題行動の未然防止に努めるとともに、きめ細かい支援を行う。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	(1)生徒が自ら将来像を描き、主体的に生涯を生きる姿勢を育てる。 (2)生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。	(1)「総合的な探究の時間」の3年間の系統的な授業展開を通じて、変化する社会で生き抜く人材の育成を進め、進路指導へ反映させる。 (2)自分の可能性を信じて目標に向き合う「挑戦力」を育成するとともに、それを支える教員の進路指導力の向上を図る。	(1)-①「総合的な探究の時間」において、分野別説明会、職業理解講座により職業観の深化を促す。 (1)-②基礎力診断テストを実施する。	(1)-①職業観の確立に積極的に取り組めたか。 (1)-②基礎力診断テストに真摯に取り組むことができたか。 (2)-①組織的な進路支援により、進路先未定の生徒数を減少できたか。 (2)-②講習や校外模試等を実施できたか。	(1)-①総合的な探究の時間や学校全体の教育活動を通して、職業観を育成し、自分の進路を具体的に考えるための意識づけができた。 (1)-②基礎力診断テストを1・2年次2回、3年次1回実施し、受検者は1年次99%、2年次84%、3年次85%であった。 (2)-①組織的な進路支援により、進路先未定生徒数は9.4%であった。 (2)-②校外での体験等の実施により進路に対する意識と学習意欲を向上できた。	(1)-①生徒が進路目標をしっかりと定められるように、年次に応じた進路行事を計画的に実施していく。 (1)-②基礎力診断テストの結果を進路指導にどのように役立てていくか考える。 (2)生徒一人ひとりが高い目標を持ち、それぞれの特性を生かした目標に向けて、きめ細かな指導を継続する。進路未定者の減少に努める。	・生徒のみなさんが、やがては仕事を通じて社会と関わり、達成感や自己有用感につながるようなちよつとした体験を重ねて、充実した時間を過ごしていった欲しいと思っている。 ・基礎力診断テスト受検者が2・3年生で減少する理由、進路未定生徒数のここ数年の動向が気になった。 ・職業観の確立・育成につけると思う。資格制度等を理解し、資格取得を目指すのも一考かと、又、地区企業での職業体験などもできれば良いと思う。	(1)-①総合的な探究の時間などを通して生徒一人ひとりが進路目標をしっかりと定め、決めていくことができた。 (1)-②基礎力診断テストを実施できた。未受験者が受験できる環境を整えたい。 (2)-①組織的な粘り強い取組により、未定者の数を減らすことができた。 (2)-②外部模試や英語技能検定試験など、校内での受験機会を増やした。	(1)-①生徒の進路希望を正しく把握し、希望に応えられる進路指導を行う。 (1)-②テスト実施前の学習課題への取組状況を改善するとともに、結果活用を促進したい。 (2)組織的な進路支援により、生徒の進路希望決定を支援する。
4 地域等との協働	(1)家庭や地域との連携によりパートナーとして愛され、支持を得られる学校づくりを推進する。	(1)-①生徒に、地域の一員として活動する機会を提供し、自己を発信することに意義を見出させ、自己肯定感・有用感を高める。 (1)-②教育活動についての情報発信の充実を図り、家庭や地域により一層の理解と協力を求める。	(1)-①生徒が地域の方々に貢献できる場を提供し、自己を発信することの意義を指導する。 (1)-②Web ページ、メール配信、Twitter 等を通して、教育活動の情報を発信し、家庭や地域に学校への理解を深めてもらう。	(1)-①生徒が地域に貢献し、自己を発信することができたか。地域貢献の大切さを指導できたか。(地域の企画や行事への参加状況、貢献度等) (1)-②適時に情報発信をすることができたか。(保護者・学校運営協議委員からの意見等)	(1)-①生徒会本部役員が生徒が社会福祉法人貴峯荘の夏祭りにボランティアとして参加し、運営に協力した。 (1)-②PTA 関連の情報や行事・修学旅行等、教育活動の様子を Web ページ、メール、Twitter で配信できた。	(1)-①これからも可能な限り地域貢献活動を実施する。 (1)-②メール配信の登録を年度初めをお願いしているが、全家庭に連絡できているか不明なため、工夫が必要である。	・地域の夏祭りなどにボランティア参加することで、「感謝された」体験があると、自己有用感、自己肯定感につながり、とてもいいと思う。 ・ボランティア体験がコロナ以前に戻ることで、生徒の学業に対する意欲向上にも繋がることを期待できると思う。 ・地域交流活動から増やせると良いと思う。	(1)-①生徒会本部役員の生徒が地域貢献活動としてボランティア等に参加することができた。 (1)-②Twitter などの即時配信ツールで、本校の取組をPRできた。	(1)-①これからも可能な限り地域貢献活動に参加し、生徒会等の活動を外部に発信していく。 (1)-②生徒・保護者にメール配信の登録をしてもらえるよう工夫していく。
5 学校管理 学校運営	(1)生徒が安全で、安心でき、居心地の良い学校生活を送ることができる、学校づくりに取り組む。 (2)より一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。 (3)教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。	(1)教育環境を整える意識の向上を図るとともに、非常時に向けた防災教育、防災用品整備に取り組む、生徒が安心して生活できる環境を確立する。 (2)組織的に職務を遂行し、生徒・保護者・県民から信頼を得られる学校づくりに取り組む。 (3)長期休業期間中に学校閉庁日を設定し、業務の効率化を図る。	(1)清掃用具・用品の整備を行い、環境整備を図る。防災用品が非常時に利用しやすい保管場所の確保に努める。 (2)PTA 活動等を利用し、生徒・保護者との活動をする中で良好な学校づくりに取り組む。 (3)仕事内容の精選、作業効率の向上を図り、職員相互で勤務時間超過を減らす職場環境作りを目指す。	(1)-①環境委員会と連携し、環境整備や防災活動を行うことができたか。 (1)-②防災用品の保管場所の整備や適切な在庫管理ができたか。 (2)保護者や地域と連携する学校行事を増やせたかどうか。地域や保護者からの要望に応えられたかどうか。 (3)時間外在校勤務時間がどれくらいであったか。企画会議や職員会議などの諸会議が、勤務時間内に終了できていたか。	(1)-①環境委員会と連携し、各学期終わりや校内行事での大掃除等を通して環境整備をすることができた。また、防災活動、防災教育において資料や物品が不足していたので新たに購入等し拡充したい。 (1)-②防災用品の保管場所の整備や、適切な場所への変更ができた。また、適切な在庫管理もできた。 (2)夏季休業中の校内清掃、文化祭出店、公民館での除草作業等の保護者や地域と連携する行事を増やすことができた。 (3)会議は勤務時間内に終わるように意識されていた。学校閉庁日も設定し、休みを取りやすい状況であった。	(1)-①環境委員の負担が大きいため、環境委員以外からのボランティア参加も検討したい。また、防災活動、防災教育において資料や物品が不足していたので新たに購入等し拡充したい。 (1)-②防災用品の整備に物理的なマンパワーが多く必要なことが課題である。生徒・職員で協力していきたい。 (2)アフターコロナで多くの行事を復活することができたが、保護者の参加数が少ないことが課題である。今後もメール配信等を活用し協力・参加を呼びかけたい。 (3)職員会議、企画会議ともに勤務時間内に終了できなかったことが2回(合計4回)あった。今後も仕事内容の精選、作業効率の向上を図る。	・防災教育、防災活動に係る備品等の整備充実には安心安全な教育環境維持の大前提である。必要なものは県に向けて、強く要望してほしい。 ・行事への保護者参加数の動向(コロナ前後の変化)と参加しない理由も気になった。 ・地区美化推進委員会・地区ごみ減量化推進委員会等の活動との連携をとれたらボランティア活動への参画の芽が見えるかと思う。	(1)校舎内外の巡回や清掃活動を通し、清潔な教育環境を整備することができた。DIG 研修を図書委員と連携し、実施することができた。防災用品の適切な保管場所は整備できたが、資料や物品数の問題点を解消したい。 (2)コロナ禍前に多くの行事を実施することができた。多くの保護者に参加していただくようにしていきたい。 (3)業務内容の精選、作業効率向上を意識して取り組むことができた。	(1)環境委員の負担を軽減するため、人員配置等を工夫する。防災用品の物品数の問題点を解消し、整備においては、生徒・職員で協力していく。 (2)保護者、地域との連携に必要な行事を確認し、多くの保護者に参加してもらえるよう、メール配信・呼びかけをしていく。 (3)学校閉庁日や長期休業、企画会議、職員会議等を年間行事の適切な日程に設定していく。

